信濃國
姨捨山

屬國のたがへる類ひは、右にもいへるごとくなれど、かくのごとく正しく國の眞中にあれば、六帖の歌も、おそらくは都人の聞たがひ成べし、むかしとても聞たがひ有べければ、一首のうたをもて、現在の地理には爭がたし、

〔北國紀行〕明る年の十八のさ月の末に、飛驒の山路をしのぎ、あづまの方へ赴き侍りぬ、位山をみるに、千峯万山重りて、いづこを限ともしらず、

こずゑ吹あらしも高き位やまひはらが下にかゝる白雲

〔運歩色葉集〕遠〕姨捨山（ヲバステヤマ）信州

〔書言字考節用集一乾坤〕姨捨山（ヲバステヤマ）信州更級郡、初云冠山、事見大和物語藻鹽、

〔和漢三才圖會六十八信濃〕姨捨山　在下同處屋代宿與戸倉宿中間、向有筑摩川、姨捨石有山腰、

更科山　里　川　在更科郡、此邊無雙月名所、

〔圓珠庵雜記〕更科山を、またはをばすて山といふ、眞淵云、更科は郡の名なり、近江の蒲生郡の野にがまふ野、大和の宇治郡の野をうぢ野といふが如く、いづれにもいへど、同じ山に二つ名あるにはあらず、

〔類聚名物考地理十二〕更級山　さらしなやま　信濃國　更級郡

此山、すなはち姨捨山なり、さらしなのをば捨山と歌にも讀て、更級郡の内に有るは、かねてかくいふなり、

〔大和物語坤〕しなの、くに、さらしなといふところに、男すみけり、わかき時に、おやはしにければ、おばなんおやのごとくに、わかくよりあひそひてあるに、略○中このおばいといたうおひて、ふたへにてゐたり、略○中月のいとあかき夜、おうなどもいき給へ、寺にたうときわざすなる、みせたてまつらんといひければ、かぎりなくよろこびておはれにけり、たかきやまのふもとにすみけれ